



回顧

0414-16

Review KUMAMOTO

阿蘇、再生の芽吹き

4月14日の前震と16日の本震で

最大震度7の揺れが発生した“平成28年熊本地震”

初期の報道では、観光地として知られる阿蘇の被害がクローズアップされていた。

あれから半年。

阿蘇の現状を伝える情報に接する機会はめっきり減った。

「その後の復興は？」

そして九州を代表する観光王国は「今どうなっているのか？」。

現状が知りたくて、熊本へ飛んだ。

文/COLORS

写真/荒木博 COLORS



地震発生から半年後の旅

熊本空港に向けて。着陸態勢に入ったことを知らせる機内アナウンス。機体が高度を下げ、雲を抜けると、そこは熊本市一帯の街並みが広がっていた。

屋根がブルーシートに覆われた家また家。「まだ、こんなに……」と心が塞ぐが、後席の乗客たちは熊本便の常連なのか、「地震直後より半分くらいに減ったね」と言葉を交わしている。そうなのだ。熊本県外で得られる情報は断片的で、連続性がない。自分の中の熊本地震は、4月のまま時間が止まっていたようだ。

空港到着後、阿蘇へ直行した。最初の目的地は、報道が何度も映し出した阿蘇大橋の崩落現場だ。果たして、そこには災害の現

場がそのままの姿で残されていた。まるで山を巨大なスコップで掘り下げたかのように鋭く削られた斜面。そこにあった景色を根こそぎはぎ取ってしまった自然の力に息を飲んだ。現地で復興支援に取り組みNPOスタッフの若者と合流して、他の被災現場も訪ねた。倒壊した家屋。断層がずれて大きな段差が生じた水田。目に見える被災だけでなく、日常を失った人びとの「見えない被災」も忘れてはならない。

その一方で、半年前に田植えされた水田は黄金色に輝き、これまでと変わらない阿蘇の営みが続いている。周囲を囲む外輪山を見渡し、その穏やかな山容にホッと呼吸を整える。不思議なものだ。この景色もまた、自然の力、地球が生み出したものなのだ。



1.熊本空港は管制塔や滑走路に大きな被害はなく、4月19日には民間航空機の離発着を再開。FDAは手荷物保安検査を手作業で行い、同空港に定期便を就航する航空会社の中で最も早く熊本発便の運航を再開した。2.阿蘇大橋の崩落現場。3.現地で復興支援に取り組むNPOユニテッド・アース白川さんは、「災害を情報ではなく、体感してもらいたい」という想いから、県外から訪れるボランティアをまずここに案内するという。

物語

ASO Story

立ち止まり、一步踏み込んで体感する

再生を繰り返す大地、阿蘇



阿蘇エリアは、南北25km、東西18kmのカルデラ地形を擁する国内有数の観光地。熊本空港から近く、阿蘇五岳の南西から南東に位置する西原村や南阿蘇村、高森町、阿蘇外輪山に囲まれた阿蘇谷を中心に広がる阿蘇市、大分県の県境に近い小国町、産山村。全国に名高い黒川温泉を有する南小国町の1市3町3村から構成されている。“平成28年熊本地震”により国道57号をはじめ主要な道路が寸断されたが、通称「ミルクロード」(県道339号)を介して阿蘇市から南小国町、小国町、産山方面へ、また「グリーンロード南阿蘇」から南阿蘇村、高森町へ通行することができる。
*おすすめドライブルートは27ページに掲載



火山の中で暮らす

阿蘇は、ユネスコ世界ジオパークに認定されており、「大地の遺産」として価値が重んじられている。この地では、太古から大規模な噴火が繰り返されてきた。中でも約9万年前の噴火は激しく、天高く舞い上がった火山灰は日本全土を覆い尽くし、北海道東部でも10センチ以上の堆積物が確認されている。大量のマグマが吹き出したことで地下に大空洞ができ、やがて陥没して周囲128キロにも及ぶ世界有数の巨大カルデラが誕生した。それを取り囲むのが阿蘇の外輪山だ。

外輪山北面に位置する大観峰展望所から南側を望むと、中岳を中心に阿蘇五岳を見渡すことができる。阿蘇五岳をまとめて『阿蘇山』と総称されるが、『阿蘇火山』とは外輪山とカルデラを含めた名称。つまり、阿蘇の人びとの暮らしは、火山の中で営まれているのだ。

阿蘇の再生を体感する

6世紀以降の記録で確認できる中岳の噴火は150回を超す。阿蘇の人びとは火山性の特異な

自然と共に生きてきた。草原の草や萱を農業や暮らしに活用し、維持・再生のために毎年春に野焼きを行う。その営みは千年以上繰り返されてきた知恵だ。枯れ草を焼き新たな芽を育むことが、農業資源の確保はもちろん、山の崩壊を防ぎ、九州の水瓶ともいわれる阿蘇の豊富な水資源を守ってきた。

阿蘇とは、躍動する地球の鼓動そのものであり、火山の噴火と共存し、再生を重ねてきた人びとの暮らしとの融合体である。それゆえに阿蘇は、荒々しさと穏やかさを併せ持つが、その両面を同時に感じられるのが『今』の阿蘇なのかもしれない。

地震による道路の寸断は、地域の生活や観光産業に大きな影響を与えた。しかし、道路の修復は日々進んでおり、先んじて整備された迂回路により車での移動に支障はない。中岳火口周辺の入山規制は続けているが、主だった観光施設やアクティビティーの受け入れ施設は随時営業を再開している。通り過ぎて眺めるだけでなく、立ち止まって一步踏み込む。阿蘇では今、さまざまな場所で『再生』を体感できる。

The scenery in ASO

阿蘇の景色



- Ⓐ 高森湧水トンネル公園 Ⓑ 内牧温泉 Ⓒ 外輪山一帯に広がる放牧の風景 Ⓓ 阿蘇エリア一帯は温泉天国(写真は黒川温泉) Ⓔ 樹齢1,000年を超える下城の大イチョウ
- Ⓕ 草千里ヶ浜 Ⓖ 古閑の滝 Ⓗ 鯉のぼり祭りを迎えた杖立温泉 Ⓖ バラ咲き乱れる複合観光施設「はな阿蘇美」 Ⓖ 紅葉に染まる阿蘇の山並み Ⓖ 人気のアクティビティ乗馬体験(写真はブルーグラス周辺) Ⓖ 黒川温泉 Ⓖ 熊本屈指の避暑地、マゼノ深谷
- Ⓖ 久住方面へ抜けるやまなみハイウェイ Ⓖ 阿蘇五岳のひとつ、根子岳 Ⓖ 阿蘇市波野にある希少なスズランの自生地 Ⓖ 阿蘇エリア一帯は、伏流水が湧き出る湧水の里(写真は白川水源) Ⓖ 樹齢400年の一心行の大桜 Ⓖ 杖立温泉の路地裏散策 Ⓖ 阿蘇神社で行われる火振り神事(2017年は休止予定) Ⓖ 世界ジオパーク阿蘇 Ⓖ 夏、産山村に絶滅危惧種ヒゴタイが咲く Ⓖ 草を食むあか牛たち Ⓖ 鍋ヶ滝



天空ヨガのインストラクターを務めるのは、『Lapin Pilates Studio(ラパン・ピラティス・スタジオ)』代表の原部静子さん。ピラティス・インストラクターの資格を持ち、参加者個々の体調を確認しながら指導する。今回「天空ヨガ」を体験した場所は、ミルクロード沿いの「かぶと岩展望所」近くの絶景ポイント。晴天時の風景もまた格別。

INFORMATION

朝日を浴びて心身ともにリラックス
天空ヨガ

阿蘇の大自然を感じるアクティビティーの中でも最近ひととき注目を集めているのが「天空ヨガ」。南に阿蘇五岳、東方に大観峰を望む高台で行われるヨガ体験は、身体と心のデトックス。朝7:00に『かぶと岩展望所』に集合し、送迎車で体験スポットまで移動。現地で約30分のレッスンを受けることができる。レッスン後のティータイムでは心身を整えるためのアドバイスも。開催期間は、6月下旬～9月末、要問い合わせ。

阿蘇ネイチャーランド
熊本県阿蘇市内牧1092-1
tel.0967-32-4196
営/9:00~17:00(11月~2月)、9:00~18:00
休/木曜(祝日の場合営業)
所要時間/約50分(お茶の時間を含む)
料金/1名4,320円(完全予約制)



*●は「天空ヨガ」の撮影地。

千年変わらぬ阿蘇の景色を、
我が身と心に写し撮る『天空ヨガ』

温められていくのを感じる。五感が研ぎ澄まされ、身体の余分な力が抜け、清涼な空気を求めて無理なく深く呼吸している自分に気付く。
ビュースポットに車を止め、ガイドブックと同じような写真を撮って次の場所に移動する——そんな楽しみ方も悪くないが、阿蘇の本質を身体で感じることができない。草原に向かつて心と身体を解き放ち、自然と一体化するかのごとくリズムをシンクロさせると、細胞が風景を記憶していくような感覚を覚える。
千年変わらぬ阿蘇の景色を、我が身と心に写し撮った。
決して忘れることはない。

阿蘇の再生は、ただの繰り返しではない。自然の力による変化、人びとの暮らしの変化、そして観光ニーズの変化に合わせて、新たな方向へ再生の芽を伸ばす。
地震で減った観光客をただ待つのではなく、新たな阿蘇のファンを増やす取り組みの代表例をご紹介します。
早朝、阿蘇地域の宿泊施設に泊まった客を乗せた車が外輪山に登っていく。乗車しているのは阿蘇の新しいアクティビティーのひとつ『天空ヨガ』の参加者たちだ。阿蘇の雲海を眺めながらのヨガ体験と聞き勇躍乗り込んだ車は、雲海のビュースポットである展望所に停車することなく、脇道へと分け入った。萱をかき分けながらデコボコ道をユサユサと進む。舗装路とは違う獣道のような荒々しさに、草原の本当の質感に触れた気がした。
と、車は綺麗に草が刈り取られた場所に停まった。外に出て数歩進むと、皆が思わず声を上げる。草原と薄紫色の空の間に真っ白な雲海が広がり、そのすべてが刻一刻と彩りを変えていく。天空に浮かぶ草原から望む雲海は格別だ。
ヨガが始まると、風と雲海の流



五感で阿蘇を感じる贅沢 星が多すぎて空が足りない

阿蘇の草原と馬との関係を追うと、平安時代の記録にまでさかのぼる。昔から優れた兵馬を育てる原野として広く知られてきた阿蘇。今も道路脇には、牛馬優先や、牛馬注意の看板が並ぶ。牛と同じく馬もまた、阿蘇というエコサイクルの構成要素なのだ。

かつては兵馬として活躍した阿蘇馬の血筋は、乗馬クラブのトレッキング・ホースに受け継がれている。乗馬未経験者でも楽しめるというので、夜の乗馬散策に参加した。闇の中を馬に揺られて進む。視線を上げると、漆黒の大地の上に星々が輝く天球が広がった。目が慣れて、小さな光を捉えるようになる。すると、頭上を覆う天の川に圧倒される。星が多すぎて星座が特定できないほどだ。

しばし歩みを止め、地平線の一点を見つめると、微細な星の傾きに地球の動きさえ感じられる。聞こえるのは馬の息遣いと草をなでる風音。そのたびに強弱をつける虫の音。時折空を流れる星からも音が聞こえるような気がする……。五感で阿蘇を感じる贅沢な時間がゆつくりと過ぎていく。



阿蘇の乗馬体験の醍醐味は、草原の中を縦横無尽に散策できることに尽きる。専門ガイドが同行するので初心者でも安心。天候によっては中止される場合もあるので、事前に電話で確認を。

INFORMATION

初心者でも安心、星空の下で乗馬体験 ナイトホース・トレッキング

阿蘇に宿泊したら、ぜひチャレンジしたいのが夜の乗馬体験。阿蘇五岳のひとつ、杵島岳の麓に位置する「阿蘇ハイランドゴルフコース」内で行われる「乙姫スターライト・トレッキング」は、簡単な乗馬レクチャー後、20分の乗馬体験を楽しめる。プロのインストラクターが同行してくれるので初心者でも安心。毎週木曜以外、11～4月は19:45～、5～10月は20:00～。2名から催行している。

エルパティオ牧場
熊本県阿蘇市一の宮町三野2305-1
tel.0967-22-3861
営/9:00～17:00
休/木曜
所要時間/約60分(体験時間30分)
料金/1名5,000円(完全予約制)



*●は「ナイトホーストレッキング」の撮影地。

郷愁

Nostalgic ASO

ゆっくりでいいんだよ。
と、あか牛が言った



外輪山に囲まれた草原は、あか牛たちのパラダイス。草を食みながら、通りかかる観光客に愛嬌を振りまくあか牛もいて、個性を見てとれるのもおもしろい。



阿蘇でも市場価格の高い黒毛和牛の飼育が増えているが、畜産家の井信行さんは、草原の粗飼料と国産の原料、独自開発した飼料をブレンドして国産自給率100%のあか牛飼育を行っている。「阿蘇の環境とあか牛の特性を最大限に生かした牧畜を目指しています。循環型の農業に欠かせない牛は、日本中の農村、農地、荒廃の進む山林の救世主となるでしょう」と井さんは語る。

INFORMATION

きっと逢える！草原ドライブ

あか牛の放牧

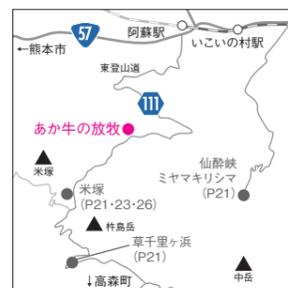
草千里の情景が象徴するように阿蘇全域にわたって草原が広がっている。古くから放牧文化が根付いているので、山中をドライブすればほぼ間違いなく牛に出合えるだろう。放牧は草原の保全にも役立つため、北外輪山の跡ヶ瀬地域など一部の地域では周年放牧を行っており、雪が積もる冬場も牛の放牧風景を見ることができる。写真は阿蘇市内から高森方面に抜ける県道111号沿いの風景。

【観光に関する問い合わせ】

阿蘇インフォメーションセンター

熊本県阿蘇市黒川1440-1 (JR阿蘇駅構内)

tel.0967-34-1600 営/9:00~17:00 休/なし



*●は「あか牛の放牧風景」の撮影地。

て再評価されている。そんな人の事情など意に介すこともなく、牛は昔も今も草を食む。急斜面であつても、牛は草を求めて自ら作った牛道をゆっくり、ゆっくりと前に進む。その歩みに合わせて、時もまたゆっくりと過ぎる。

牛が山と里を行き来する中で、人が草を刈り、牛が草を食み、冬に野焼きが行われ、春の到来とともに草原は美しく甦る。阿蘇で千年くり返された自然の再生サイクルは、循環型社会そのもの。構成する要素がひとつ欠けただけで、麗しき輪廻は途切れてしまう。農業の機械化が進むと役牛は役割を終え、あか牛はその数を減らしていったが、近年は食肉牛とし

雄大な景観を楽しむためには、観る者の心が気ぜわしくてはいけない。阿蘇の草原でのどかに草を食む牛の姿を眺めていると、自然と時間の感覚がスローダウンする。阿蘇の人びとは古くから一家に数頭ずつ牛を飼い、農作業や輸送のための役牛として大切に育ててきた。「夏山冬里」という言葉のとおり、春夏は牛を草原で放牧し、秋の深まりと共に里へ戻して冬の間は畜舎で育てる。その際に集めた牛糞と刈った牧草で堆肥を作り、農作物を育てた。

阿蘇の「あか牛」は、穏やかな性格ながら骨太で頑丈。粗飼料(牧草)だけで育つので他地域でも役牛として人気が高く、生まれた子牛は農家の貴重な現金収入にもなった。



1.春の阿蘇では、各地で花のイベントが開催される。仙酔峡に咲くミヤマキリシマをはじめ、バラ、スズラン……。美しく彩られた阿蘇の風景もまた格別。2.夏の草千里ヶ浜。草千里ヶ浜は約3万年前の噴火でできた2重の火口が作り出した地形。歴史的な背景を知ると景色の見え方が変わってくる。3.秋の米塚周辺は、背の高いスキが生い茂り、陽に当たると黄金色に輝く。

INFORMATION

トレッキング&ジオ・ツアーで

阿蘇の四季を体感

季節によってさまざまな表情を見せてくれる阿蘇の自然を堪能するなら、専門知識を持つガイドと巡るトレッキングやジオ・ツアーがおすすめ。景観を楽しみながら、岩石や動植物、阿蘇地域特有の文化を学ぶことができる。所要時間1〜3時間程度のトレッキングから、4〜6時間かけて車でジオ・サイトを回るツアーまで、利用者の希望に合わせたルート設定が可能。

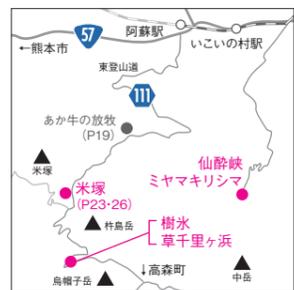
阿蘇ジオパークガイド協会

熊本県阿蘇市赤水1930-1 阿蘇火山博物館1F

tel.0967-34-2089

営/9:00〜17:00

休/年末年始



*●は「季節の風景」の撮影地。



四季

Four seasons in ASO

霧氷が織りなす銀世界の美
阿蘇は冬もオン・シーズン

その土地で暮らす人と、観光で訪れる人とは、おのずと風景の捉え方が異なる。観光客は常にオン・シーズンを求め、その土地定番の風景を楽しめる時期に集中する。阿蘇で定番の風景といえば、夏空のもと、青々とした草原で草を食む馬や牛の姿だろうか。山地形気候の阿蘇は、夏でも涼しく、熊本市内に比べると気温は常時5度ほど低い。

それゆえに冬は寒く、阿蘇山の山頂では氷点下10度以下になる日もあり、厳しい自然の美を垣間見せる。特に標高1000メートル以上のエリアでは、気温が氷点下になると大気中の水蒸気が氷結し、これが草や木々に付着して霧氷となる。

積雪と霧氷に彩られた冬の阿蘇では、空気がキンと張り詰め、生命の躍動感に溢れるグリーン・シーズンとは異なる趣を放つ。霧氷が作り出す一面の銀世界は、地元の人さえ心を奪われるという。そんな冬の景色にも近年変化が現れている。夏山冬里を標榜してきた阿蘇の草地在改良され、冬の間も牛を草原で放牧する周年放牧が行われるようになったのだ。草千里の馬のように、冬の凍てつく景色に立つあか牛の姿が、新しい阿蘇の風物詩となっていくのだろうか。

春の草原は黄緑色の柔らかな色彩に包まれ、秋はスキの穂が陽射しを浴びて黄金の輝きを放つ。雄大な景色の中に身を置くトレッキングや乗馬といったアクティビティーは、季節によって趣が異なるため四季を通じて人気が高い。阿蘇にオフ・シーズンはないのである。

INFORMATION

阿蘇に春の訪れを告げる

野焼き

阿蘇の野焼きは、春の訪れを告げる伝統行事。近年はボランティアの協力も得て、3月上～中旬にかけて行われている。基本的には観光イベントではなく、草原を維持するための活動であり、火の勢いが強く危険を伴うため見学の際は十分ご注意を。作業の妨げにならないよう配慮も必要だ。

【野焼き支援ボランティアに関する問い合わせ】
阿蘇グリーンストック
熊本県阿蘇市小里656-1
(阿蘇草原保全活動センター内)
tel.0967-32-3500
営/8:30～17:00 休/なし



*●は「野焼き風景」の撮影地。



*●は「野焼き後の風景」の撮影地。



1.野焼きを終えた山肌は、真っ黒に焦げている。だが、1週間もすれば所々に緑が芽吹き、5月にはみずみずしい緑の草原に覆われる。2.阿蘇に生息するオオルリジミの幼虫は、牛に害のある草を食べてくれる。3.牧野組合狩尾3区の五嶋一俊区長(左/68歳)と若手後継者の鎌倉吉孝さん(40歳)。野焼きもまた次世代への継承が課題になっている。



再生
Rebirth ASO

真の黒に焦げた大地から
新しい春が生まれる

阿蘇の野焼きは例年3月上
中旬に行われる。野焼きが終わり、
黒く焦げた山肌を見ると、地元の人
びとは「春遠からじ」と感じ入
るそうだ。

50年ほど前までは、人が日常的
に萱を刈り、牛が草を食べていたた
め草原は背丈の低い芝で覆われて
いたという。子どもたちはその斜
面を巨大なすべり台にして遊んで
いたそうだ。当時の野焼きは、火の
勢いも小さく危険も少なかった。
しかし、今、阿蘇の草原は完全に
人の力に頼る形で維持されている。

野焼きを担うのは、草地の利
用者で構成される牧野組合の人
びとで、準備は前年の夏、草原に
幅10メートルほどの防火帯を作る
「輪地切り」と呼ばれる作業から
始まる。この野焼きを絶やせば、す
ぐに雑木が芽吹き、草地は森林に
浸食される。その成長は早く、植

林と異なり雑木林は密集して育
つため、人が分け入ることもできな
くなくなってしまうのだ。

人の背丈を超えるススキや萱が
茂る現在では、火柱が20メートル
を超えることもある。危険と隣り
合わせの野焼きだが、人がその火
に対峙することで、これからも阿
蘇の草原は継承されていく。

今年、地震と長雨の影響を受
け、「輪地切り」の作業が遅れて
いると聞いた。それでも春の足音
が聞こえる頃になれば、阿蘇の草
原は野焼きの炎に包まれるだろ
う。それは、被災した熊本の再生
を象徴する炎になるはずだ。そ
して5月、黒く焦げた大地から
新緑が芽吹き、青々とした草原
が蘇る。

地球の営みとともに生きる
阿蘇は、千古の時を超えて永遠に
再生が続ける。



**自家製だから安全安心
左党にもおすすめ、自家製スモーク**

国産小麦を100%使用したオーガニック・パンが勢ぞろい。中身のクリームやあんも全て手作り。酒の肴におすすめのベーコンやチキンをはじめとする自家製スモーク各種もあり。

郷のパン工房 グランツムート MAP-O

熊本県阿蘇郡南阿蘇村久石2752-1
tel.0967-67-3231
営/10:00~19:00 休/水曜
*熊本空港から車で約50分



**土・日曜、祝日限定
駅のホームでカフェタイム**

南阿蘇鉄道のレトロな駅舎を利用したカフェで、ひと休み。阿蘇の牛乳を使ったシフォンケーキは、ふわふわの食感。冬季限定で柚子シフォンもメニューに登場する。

駅舎カフェ 久永屋 MAP-P

熊本県阿蘇郡南阿蘇村河陽3440-4 長陽駅舎内
tel.0967-67-1107
営/11:00~18:00
休/月~金曜
※現在南阿蘇鉄道は運休中
*熊本空港から車で約40分



**ソーセージ・マイスターが作る
本格ハム&ソーセージ**

ドイツで修行を積んだ職人が作るハムとソーセージは、本場ドイツも顔負けの味とラインナップ。県外から足を運ぶお客も多い。気軽に試食もできるので、好みの味を見つけよう。

デュッセル MAP-Q

熊本県阿蘇郡小国町西里3316-5
tel.0967-46-4186
営/10:00~17:00頃 休/火曜、不定
*熊本空港から車で約80分



**世界が認めた三ツ星の味
『ASO MILK』と
ソフトクリーム**



国際味覚審査機構が主催した世界食品コンクールで優秀味覚賞を受賞した極上の牛乳をご賞味あれ。ソフトクリームも旨し。

道の駅阿蘇 (P27) MAP-J

道の駅 あそ望の郷くぎの (P27) MAP-K

tel.0967-32-0565 (阿部牧場)
*熊本空港から車で約50分



**阿蘇を代表する郷土料理
『だご汁』と『高菜めし』を食す**

ご当地野菜を煮込んだ『だご汁』と特産品“阿蘇高菜”をたっぷり使った『高菜めし』のセットは、おふくろの味。ぴりりと辛みが効いた高菜の風味は、癖になりそう。

山賊旅路 MAP-L

熊本県阿蘇市黒川2127 tel.0967-34-2011
営/11:00~17:00 休/水曜
*熊本空港から車で約45分



**阿蘇のあか牛&県産小麦100%
完全手作りの『阿蘇バーガー』**

あか牛肉の直売店が作るバーガーはあか牛100%のパンが自慢。頬張れば旨みたっぷりの肉汁が溢れだす。おなかの好き具合に合わせてパンを50~200gで選べる。

レストラン・ロッソ

MAP-M

熊本県阿蘇市乙姫1768-1
tel.0967-23-6130
営/10:00~18:00
休/不定
*熊本空港から車で約50分



**阿蘇の雄大な景色を眺めつつ
囲炉裏を囲むひととき**

地元野菜やヤマメ、豆腐に田楽みそを塗り、囲炉裏で炙る。香ばしい匂いに包まれながら竹で燻する『かつぼ酒』で一献。

高森田楽保存会 MAP-N

熊本県阿蘇郡高森町大字上色見2639
tel.0967-62-0234
営/10:00~18:00
休/なし
*熊本空港から車で約60分



**阿蘇あか牛の旨味を味わう
大人の満腹ステーキ丼**



250gものリブロースステーキをごはんに乗せた名物丼は、その名も『あか牛ステーキ丼』。特製赤ワインソースの風味が、食欲をそる。

レストラン藤屋 MAP-G

熊本県阿蘇市一の宮町宮地4718
tel.0967-22-0166
営/11:00~OS20:00 休/木曜
*熊本空港から車で約60分



**ワンコインで旬の野菜を食べ尽くす
優しい味わいのランチセット**

自家製無農薬野菜を使ったさまざまな小鉢がお膳に並ぶ『お野菜ランチ』500円。店でついた餅で作る『揚げもち』は、オーナーこだわりのひと品。阿蘇の名物『あか漬』も味わえる。

カフェ もちとこ MAP-H

熊本県阿蘇市西町885
tel.090-1927-7047
営/11:30~17:00 休/火・土曜、第1日曜
*熊本空港から車で約70分



**450種4,000株のバラの館で
のんびりランチはいかが？**

西日本最大級のバラ園は、春と秋が見頃。バラグッズや特産品が充実したショップは見応えあり。あか牛たっぷりのステーキ丼(ランチのみ)が自慢のレストランも併設。

はな阿蘇美 MAP-I

熊本県阿蘇市小里781 tel.0967-23-6262
営/9:00~18:00 (レストランは11:30~15:00)
休/なし
*熊本空港から車で約50分



**98度の源泉ならではの
“蒸し湯”の魅力を実感**

美肌になれると評判の天然ミストサウナ“蒸し湯”が点在する杖立温泉。高温の源泉を用いた“蒸し湯”もある。旅館「米屋別荘」では、蒸し湯のほか、5種の露天風呂付家族風呂とうたせ湯、元湯が堪能できる。立ち寄り入浴も可能。

米屋別荘 MAP-D

熊本県阿蘇郡小国町下城4162-4
tel.0967-48-0507 *熊本空港から車で約80分



**24時間温泉三昧
通は“蒸し窯”で温泉卵**

コインタイマー式の貸切風呂で注目を集める「わいた温泉郷」。エリア内には、はげの湯、山川をはじめ、七つの温泉地が点在する。その泉質と風情で人気の高い「天句松 裕花」では、湯上りの熱々温泉卵が大人気。入浴前に卵を蒸し釜に仕込んでおこう。

岳の湯地獄谷温泉 天句松 裕花 MAP-E

熊本県阿蘇郡小国町北里1800-33
tel.0967-46-4935
営/8:00~22:00 (家族湯は、24時間営業)
休/第3水曜
*熊本空港から車で約60分



**阿蘇五岳のひとつ根子岳を展望
絶景露天風呂ならこちら**

宿泊施設も兼ねた「月廻り温泉館」は、雄大な根子岳に向けた展望がウリ。露天風呂からの景色はご覧のとおり。のんびりと寛ぎたい時には、完全個室の貸切風呂が、おすすめだ。

月廻り温泉館 MAP-F

熊本県阿蘇郡高森町3045-1 tel.0967-62-0141
営/立ち寄り湯15:00~19:00 (土・日曜、祝日は13:00~)
休/火曜
*熊本空港から車で約60分



**阿蘇周遊の拠点に
文豪に愛された老舗旅館**



夏目漱石をはじめ、多くの文豪が立ち寄った内牧温泉。与謝野鉄幹・晶子夫妻が逗留した「杉の間」は、今も当時の姿を留めている。源泉の温度は約45度。本物の源泉掛け流しを体感しよう。“熊本地震”を機に生まれ変わった老舗旅館だ。

蘇山郷 MAP-A

熊本県阿蘇市内牧145 tel.0967-32-0515
*熊本空港から車で約50分



**川辺に湧き出る名物温泉
これぞ露天風呂の醍醐味**

満願寺温泉「川湯」の露天風呂は、足下から湧出する源泉100%の天然温泉。湯船の脇の水場には洗い場があり、地元の人が洗濯にやってくる。昔ながらの風情が素敵。

満願寺温泉 川湯 MAP-B

熊本県阿蘇郡南小国町満願寺志津
tel.0967-42-1444 (南小国町観光協会)
営/6:00~22:00 休/増水時
*熊本空港から車で約60分



**入湯手形で湯めぐり三昧
竹灯りに彩られる黒川温泉へ**

入湯手形発行30周年を記念し、当たりくじ付き手形が登場。1枚1,300円でお好きな三つの温泉に入れる仕組み。12月は、竹灯りが温泉街を彩る“湯あかり”の季節。そぞろ歩きの風情もひとしおに。

**黒川温泉観光旅館協同組合
インフォメーションセンター** MAP-C

熊本県阿蘇郡南小国町黒川さくら通り
tel.0967-44-0076
*「湯あかり」は12月下旬~2月ごろまで
*熊本空港から車で約80分



悠楽

Specialty of ASO

エネルギーシユな地球の恵みが、
阿蘇の旅をおもしろくする

躍動する地球は多くの恩恵をもたらす。
地中から湧き出す多彩な温泉。
大地を潤す伏流水が生む郷土の味。
阿蘇を巡る旅のルート上に点在する
おすすめの温泉とグルメをご紹介します。

道の駅 MEGUr*i*



カライモのおやつ大集合
道の駅大津 MAP-9
熊本県菊池郡大津町大字引水759
tel.096-294-1600
営/9:00~18:30(3~11月)
9:00~18:00(12~2月)
休/なし



阿蘇の大パノラマを一望
道の駅あそ望の郷の MAP-10
熊本県阿蘇郡南阿蘇村久石2807
tel.0967-67-3010
営/9:00~17:00
休/不定休



復興ツアーも開催
道の駅阿蘇 MAP-11
熊本県阿蘇市黒川1440-1
tel.0967-35-5088
営/9:00~18:00
休/なし



そば打ち体験ができる
道の駅波野神楽苑 MAP-6
熊本県阿蘇市波野小地野1602
tel.0967-24-2331
営/8:00~20:00
休/第2水曜、1月1日



小国の情報発信基地
道の駅小国
ゆうステーション MAP-12
熊本県阿蘇郡小国町宮原1754-17
tel.0967-46-4111
営/8:30~18:00
休/なし



おやだかに流れる名瀑
鍋ヶ滝公園
高さ10m、幅20mの滝を間近に望む遊歩道が整備されている。滝の裏側に回るレイアウトで、「裏見の滝」としても有名。
熊本県阿蘇郡小国町黒洲 MAP-6
問/0967-46-2113(小国町情報課商工観光係)



絶景のパワースポット
押戸石の丘
古代文字が刻まれた謎の巨石群。古代人の祈りの場とも伝わるパワースポットだ。
熊本県阿蘇郡南小国町中原 MAP-7
問/0967-42-1444
(南小国町観光協会)

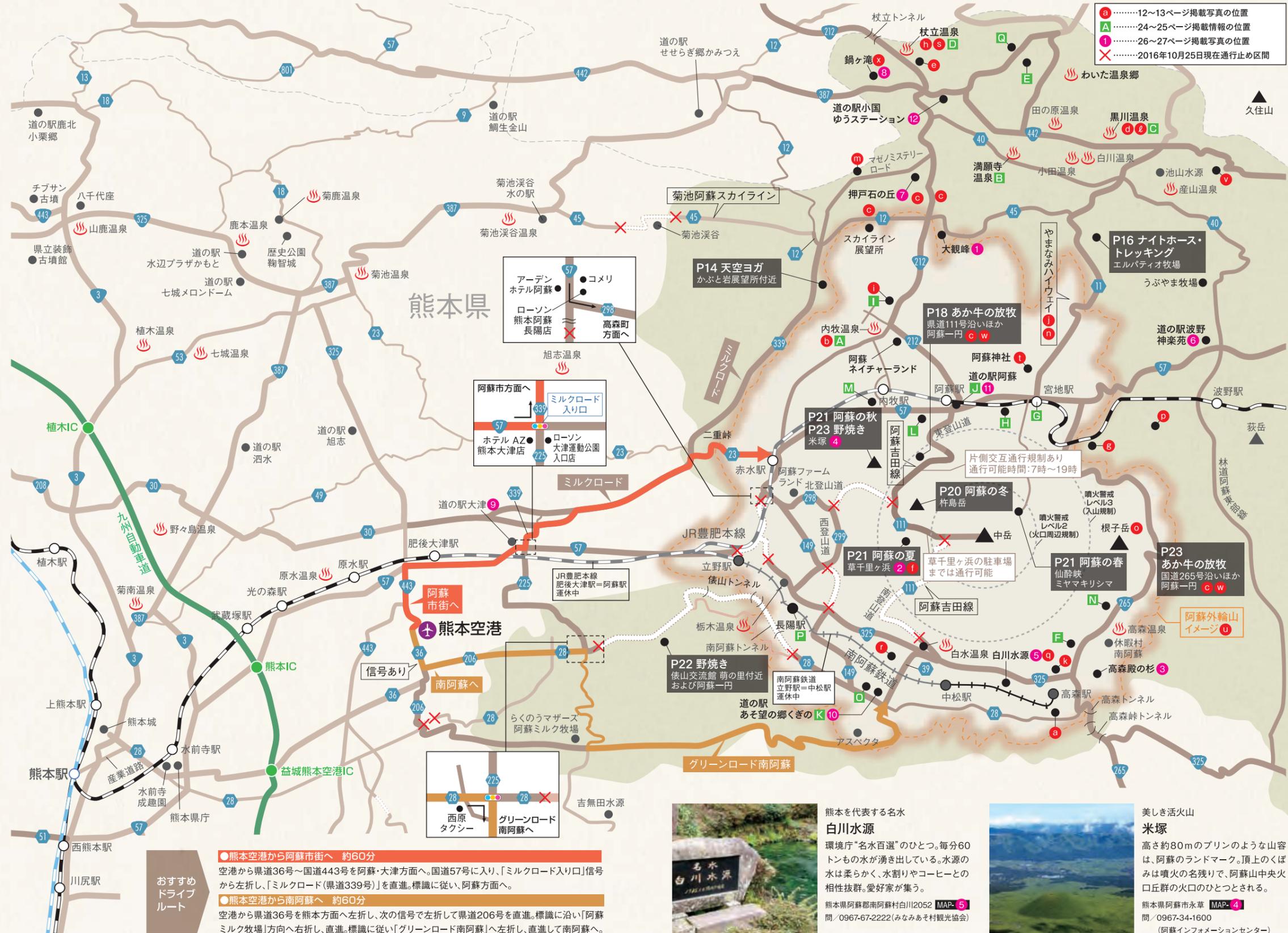


郷土の誇り
岩戸神楽
地元の人々に受け継がれる郷土芸能。「道の駅波野神楽苑」には神楽の歴史を展示した神楽資料館もあり。
熊本県阿蘇市波野小地野1602 MAP-6
問/0967-24-2331(道の駅波野神楽苑)

本特集でご紹介した阿蘇のおすすめスポットは、熊本空港から60~80分圏内に点在する。10月21日現在、未だ復旧途中の道路も少なくないが、開通部分を繋げば十分阿蘇を見て回れる。熊本空港から『ミルクロード』を経由して阿蘇へ、『グリーンロード南阿蘇』を介して南阿蘇へ。阿蘇自慢の絶景ルートを愉しもう。

阿蘇 周遊マップ

ASO Tourist Map



a12~13ページ掲載写真の位置
 A24~25ページ掲載情報の位置
 126~27ページ掲載写真の位置
 X2016年10月25日現在通行止め区間



阿蘇唯一の絶景
大観峰
北外輪山の一角に突き出た峰に展望台があり、阿蘇五岳や雲海立ち込める阿蘇谷などを一望できる。土産店や食事処もあり。
熊本県阿蘇市山田 MAP-1
問/0967-34-1600
(阿蘇インフォメーションセンター)



牧歌的な風景が広がる
草千里ヶ浜
鳥帽子岳の北麓、火口跡に広大な草原が広がる阿蘇を代表するスポット。阿蘇市から東登山道を経由して草千里駐車場までのドライブがおすすめ。
熊本県阿蘇市草千里ヶ浜 MAP-2
問/0967-34-1600
(阿蘇インフォメーションセンター)



開運! 縁を結ぶ夫婦杉
高森殿の杉
南外輪山の中腹にひっそりと立つ巨木がパワースポットとして注目を集めている。樹齢400年を超える摩訶不思議な姿は一見の価値あり。
熊本県阿蘇郡高森町高森1614-3
高森町観光交流センター内 MAP-3
問/0967-62-2233(高森町観光協会)



熊本を代表する名水
白川水源
環境庁「名水百選」のひとつ。毎分60トンもの水が湧き出している。水源の水は柔らかく、水割りやコーヒーとの相性抜群。愛好家が集う。
熊本県阿蘇郡南阿蘇村白川2052 MAP-5
問/0967-67-2222(みなみあそ村観光協会)



美しく活火山
米塚
高さ約80mのプリンのような山容は、阿蘇のランドマーク。頂上のくぼみは噴火の名残りで、阿蘇山中央火口丘群の火口のひとつとされる。
熊本県阿蘇市永草 MAP-4
問/0967-34-1600
(阿蘇インフォメーションセンター)